

※今回の西日本豪雨災害で亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

平成30年7月7日未明。西日本を中心とする豪雨により岡山県の真備町では町を流れる小田川の堤防が決壊。町の約4分1が冠水し、水位の高いところでは二階建ての家の屋根に到達するほどの被害がでました。

弊社では7月下旬から約2週間、加盟している鹿児島県環境整備事業協同組合の要請により、社員2名を災害復旧現場へ派遣しました。炎天下の中、自衛隊をはじめ個人・団体のボランティアの方が一生懸命に作業をされていたとの事ですが、復旧には程遠い現状だったとの事。未だに家の前や歩道には積み上げられた家財道具などがあり、処分場の受け入れも間に合わない為、野球場や学校のグラウンドなどに一時的に廃棄している状況との事。

また、冠水した地域では砂ぼこりが舞い、汗で濡れたマスクは呼吸がしづらく体力を奪われる一因になっているそうです。TVなどで放映されている被災者の方の話では、「あつという間に水があがってきた」とか「まだ大丈夫だろう」と思っていた方がほとんどでした。実際に冠水した地域は、自治体が発行した「ハザードマップ」とほぼ一致しているように見られていない方も多く、周知徹底が叫ばれています。

鹿児島でも約25年前に8・6水害が発生し、多くの方が被害に遭われました。月日も経ち忘れてしまいがちですが、「他人事」ではなく普段から家族やご近所さんと災害が起こった時にどうするか、一度話をされて見てはいかがでしょうか？



決壊した堤防付近



野球場に山積みの廃棄物



山積みになった仮置き場



空き地に捨てられた廃棄物



人が通ることができないほどの歩道上の廃棄物

災害派遣現場で感じたこと

7月30日より1週間岡山県真備町に災害派遣に行きました。

私は被災した方々と直接言葉を交わす機会はありませんでしたが、道路から見える光景には、炎天下の中で必死に家の片付けに追われ、疲れ果てた住民の方々の様子が窺えました。少しでも被災した方々のためになりたいと思い、時間の許す限りダンプで災害ゴミを運びました。

洪水の恐ろしさを見た私は、徳川幕府の命により宝曆治水工事をやりとげた薩摩藩家老の平田鞆負を思い出し、幕府の理不尽な命令に反発する藩士たちを「住民に尽くすも武士の本分」と説得した言葉が頭をよぎり、少しは住民の方のお役に立てた気がして、少し誇らしくも感じました。

そして、今の自分に「何が出来るだろう」と考えたとき、この災害派遣での経験や現状を少しでも多くの方に伝えることだと思いつくとともに災害に対する備えなどについて各ご家庭で話し合うきっかけになればと思っています。

弊社からの第2陣で被災地に向かいました。先陣で出発した同僚から災害の現状を聞いていましたが、予想を上回る惨状でした。まず目に入ってきたのが空き地や歩道に山積みされた災害ゴミと砂ぼこりでした。たまたまゴミを捨てに来られた住民の方に話を聞くと「あつという間に水が2階の床まで上がってきた・・・。」との事でした。「今からが大変だけど、ボランティアの皆さんや自衛隊の皆さんも頑張ってくれているので早く日常に戻れるよう、私たちも頑張ります。」とおっしゃっておられました。

1週間の災害派遣でしたが、被災者の苦勞がわかり、少しでもお手伝いできたと思うとともに、個人でも何かできないか考える機会になりました。



かたいもんぞ

第53号

発行所 株式会社文化社

本社 鹿児島市新栄町22-26
TEL 099-256-0075
支店 日置市伊集院町1264-3
TEL 099-273-2588

平成15年5月創刊 「かたいもんぞ」は、<http://bunka-inc.jp>にてご覧いただけます。53号は平成30年10月1日より配布開始しています。

災害の被災者の皆さまにお見舞い申し上げ、一刻でも早い復興と普段の生活にもどりますよう祈念いたします。弊社では、所属組合に寄せられた岡山県真備町の要請に応え、社員14人/日分の支援活動に従事しました。その支援状況も掲載していますのでご高覧ください。

異常気象に伴う災害は日本のみならず世界各地で大きな被害をもたらしているようです。局所的な災害はしばらく続くと予想されています。日常生活でのごみ分別や節電節水は勿論、世界規模で地球保護、温暖化防止活動を意識して実行しなければ、人類が住める「地球」が維持できないかもしれません。

日本では、時代の称号も変わります。思い出すと「平成」が始まる頃は、大きなショルダーボックス型の携帯電話、大きな箱型パソコンが出始めたころでしたが、いまはどうでしょうか？この30年に起こった劇的な物質・価値観等の変革により、私たちの生活は便利に、より高次な文化に変わりました。社会保障構造など変革が必要なものも在りますが、新しい称号の新しい時代になっても、先人や祖先が日本・鹿児島に残してくれた「人の正しい心」だけは変わらないように継承していきたいものです。



社長：土屋 要九

ボランティア 夏祭り花火大会後の清掃奉仕活動 ～郡山総合運動場 & 松元平野岡運動公園～

8月5日(日)の早朝、松元平野岡運動場及び郡山総合運動場の2会場ですら毎年恒例の清掃活動を地元の方々や商工会の方々と一緒に行いました。弊社では社員17名が2会場に分かれて、花火の破片やビニール袋・タバコの吸殻などを拾いました。両会場とも年々ゴミは少なくなっていて、以前は1時間以上かかることもありましたが今年は40分程度で終わることが出来ました。



編集部員のちょっと言わせて

感謝

先日、ちょっといいことがありました。いつもフェリーで通勤しているのですが、朝一のフェリーという事もありついウトウト寝てしまいました。会社について朝の準備をしている時に、自家用車の鍵がないことに気づきました。

そこからは大変です。フェリー会社や交番に連絡するも届け出がなく、あきらめていました。帰るときにもう一度フェリー会社に尋ねて無かったら諦めようと思っていたら届けてくれた方がいたようで、ホッと一安心。

TVなどでも日本の治安の良さが取り沙汰されていますが「財布(小銭しか入ってません。笑)だったら届けてくれたらどうか？」などと穿った見方をしてみたり・・・。

この世知辛い世の中、まだまだ捨てたもんじゃない！拾って届けてくださった方に感謝！！自分には反省！！この場を借りて、届けて下さった方に御礼申し上げます。

学び 浄化槽維持管理研修会

9月5日(水)公益財団法人鹿児島県環境保全協会主催の維持管理技術研修会が開催され、県内から約300名の浄化槽管理士(弊社9名)が参加しました。①フロートレス自動交互運転ポンプについて②DO計の原理と取り扱い③水質悪化施設の原因の考え方・改善事例についてなど、鹿児島県環境保全協会や各メーカーの担当者から説明がありました。浄化槽の付帯機器も日々進化しており、お客様宅に設置されたときに戸惑わないよう一生懸命勉強してきました。また、メーカーごとにブースも設置され、新商品の紹介や検査機器類・道具の紹介などがありました。



ボランティア 甲突川清掃活動に参加 ～市民や事業者が参加～

7月7日(土)公益財団法人かごしま環境未来財団主催の「甲突川クリーン作戦」に弊社から6名参加しました。当日はあいにくの大雨で参加者も少なく、河川敷の清掃も危険との判断から、周辺の道路のゴミ拾いや除草作業を行いました。作業中通りすがりの方から「雨の中ご苦労様」とお声掛けいただき、少し嬉しいひと時でした。



～大根葉のお漬物出荷中



以前ご紹介した益満様。普段から色々な季節の野菜を栽培されていらっしゃいますが、弊社担当者が特にお勧めなのが「大根葉のお漬物」との事。

採れた大根を一晩漬けて朝には出荷しているそうです。担当者は早速、晩御飯に頂いたそうですが、「大根葉に鯉節をまぶして醤油を少し垂らして食べると、食欲のないこの時期に何杯でも食べれる」と申しておりました。また、益満様のお勧めレシピは豆腐と大根葉の白和えをポン酢でいただくのも最高だそうです。

益満様曰く「クレソンのサラダと美味しい漬物で、この暑い夏を乗り切ってください。」との事。このほかにも季節の野菜やお漬物もチェスト館にて好評販売中です!!



錫山の史

～鹿児島市下福元町

鹿児島市下福元町にある錫山地区。名前のとおり錫鉱脈が至る所にあり、錫だけを産した鉱山としては日本一だったそうです。昭和に入り協和鉱業が経営、1979年(昭和54年)には産出量は84.5tと全国2位の実績を誇ったようですが、1986年(昭和61年)中国などのダンピングにより錫の価格が暴落し閉山となりました。

錫山はその昔、鹿追原と呼ばれており、島津義久(16代当主)が現在の鹿児島市から加世田までの御遠馬の時に行き来していた場所でお供の八木主水佑元信が発見したとされています。元信は私財を投じて開発・採掘をし、藩に運上金として採れた錫を収めていたといひます。薩摩藩は1701年に幕府に許可を得て藩直轄の経営とし、1853年～1854年には島津斉彬の命で湧上抗において約14万8千斤(約89t)もの錫を産出したといわれています。また、幕末には「十万斤」(充満金)時代と呼ばれる好景気を迎え、全国から300人とも600人ともいわれる鉱夫が働いていたようで、その相手をしていた女郎さんたちのお墓も現存しています。周辺には当時の坑道跡や山師たちから信仰の厚かった神社などがあちこちにあり、自然遊歩道もありますので気候の良いこれらの時期に散策されてはいかがでしょうか?



①公民館横の道路を下っていくと道路わきに錫鉱発見の地があります。②入っていくと記念碑や石灯籠がありました。③裏に回ると小さな坑道跡?④コンクリートブロックで塞がれた坑道入口



⑤発見の地からさらに進むと湧上抗の案内板がありました。⑥フェンスで塞がれた坑道入り口⑦坑道内部⑧鬱蒼とした小道を上ると...



⑨説明版には40数年前道路の工事の際この近くで銀のかんざしが出てきたと...。⑩お地蔵様と石碑?⑪身寄りのない女郎さんを埋葬したそうです。

※周辺は山あいの静かで小さな集落です。駐車の際は地元の方のご迷惑にならないよう、お願い致します。

地元に残る維新の足跡... ～別府晋介編～



西郷隆盛の墓



桐野利秋の墓 別府晋介の墓

前号で紹介した『桐野利秋』の母方のいとこにあたる『別府晋介』。二人は兄弟以上に仲がよかったようです。『別府晋介』が幕末に登場するのは、1868年の戊辰戦争からになります。城下四番小隊の分隊長に任命され、白河城・棚倉・二本松の戦いに参戦しました。明治2年に鹿児島常備隊が創設された際には、大隊中の小隊長に任命されます。明治4年薩摩置県に備え西郷が兵を率いて上京した際、西郷に従い御親兵(天皇や御所を警護する兵)への編入後、近衛陸軍大尉に任命されました。その後、征韓論を進める西郷に命じられ、満州・朝鮮を変装しながら約2ヶ月にわたり偵察。帰国後桐野利秋に「鶏林八道を蹂躞するには、我二三箇中隊にして足りり」(韓国を攻め落とすのに私に3箇中隊もあれば足りる)と叫んだと言います。

征韓論で久保利通と意見が対立した西郷は鹿児島へ帰郷。別府晋介も官職を捨て帰郷し、西郷とともに私学校設立へ尽力します。明治10年、別府晋介は独立大隊を組織し連合指揮長となって北上した際、川尻にて熊本鎮台偵察部隊と遭遇し戦いが始まります。これが「西南戦争」の始まりとされています。その後は、敗戦に次ぐ敗戦で萩原堤の戦いで足に重傷を負い、山鴛籠に乗って城山まで移動したそうです。城山での最後は前号で紹介した通りです。

英雄・西郷を介錯した男。師と仰ぎ、兄と慕い従ってきた別府晋介の心中は想像に絶するものがあつたでしょう。『別府晋介』・『桐野利秋』のお墓は南洲墓地にある西郷の左右にあり、今も西郷を支え守っているかの様です。

南洲墓地 ～福岡藩士～

南洲墓地を取材中ちょっと不思議なお墓を見つけました。説明によると西南戦争で亡くなった福岡隊のお墓と記されていますが、どこか違和感が...

後で調べるとこの2基のお墓は、ご遺族の「故郷の福岡に向けてほしい」との意向で他の墓石とは逆の方を向いているとの事でした。(この他の墓石は錦江湾を向いています。)



学び ディスポーザー対応型浄化槽勉強会

8月24日(金)新型浄化槽の社内勉強会を行いました。某メーカーが出したディスポーザー対応型浄化槽です。ディスポーザーとは、流しの排水口の下に取り付けて使用する台所の生ごみを自動的に粉碎し水と一緒に浄化槽へ排出する機械の事です。ディスポーザーによって発生する破砕ごみは浄化槽へ入る汚水の負荷を増大させる為、従来の浄化槽では処理できません。そのため使用開始から1年が経つお客様の浄化槽をお借りして、清掃班(8名)で自主的に勉強会をすることにしました。バキューム車で汚水を汲みながら槽内の汚れ具合・構造・各機器の役割などテキストと照らし合わせながら確認し、今後増えるかもしれない型式に対して、皆で勉強し情報を共有することが出来ました。

清掃班の合言葉「誰が清掃に伺っても、同じレベルの作業ができる」ための取組のひとつです。



ブログ始めました。

1～2年ほど前から弊社HPに社長ブログをはじめ、社員のブログを掲載しております。初めはパソコンの得意な社員がポチポチと更新しておりましたが、今ではパソコンに不慣れなおじさん?(笑)たちも毎月1回の更新をしております。記事の内容は日常の事や時事ネタ・趣味やDIYなどお役に立つ記事はないかもしれませんが、お暇な時で結構ですので、一度訪問していただければ「励み」になりますので、ぜひご覧下さい。

※「文化社」で検索して頂くとHPがあります。

